令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	加藤　幸弘
1		基礎理化学	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、また人体の基本的な関節運動のメカニズムを理解し関節運動を表現できるようにする。

教育目標該当項目：
③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
基礎運動学　第6版補訂/医歯薬出版

キーワード
①物理学　②数学　③関節運動
④バイオメカニクス

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	力学の基礎	ベクトル、円運動と並進運動について	加藤
第2回	2	力学の基礎	速度・加速度・変位について	加藤
第3回	1	力学の基礎	ニュートンの運動法則について	加藤
第4回	2	力学の基礎	仕事・エネルギー・運動量について	加藤
第5回	2	バイオメカニクス	トルクとモーメント、てこの性質、平衡について①	加藤
第6回	1	バイオメカニクス	トルクとモーメント、てこの性質、平衡について②	加藤
第7回	2	バイオメカニクス	人体の運動をてこで表現する①	加藤
第8回	2	バイオメカニクス	人体の運動をてこで表現する②	加藤
第9回	1	バイオメカニクス	練習問題、国家試験問題解説	加藤
第10回	2	人体の仕組み	骨と関節の構造、関節の分類	加藤
第11回	2	人体の仕組み	骨格筋の構造、分類、筋収縮のメカニズム	加藤
第12回	1	人体の仕組み	筋線維の種類、筋収縮の様式	加藤
第13回	2	関節運動学	肩甲帯、肩関節	加藤
第14回	2	関節運動学	肘関節、手関節、手指	加藤
第15回	1	関節運動学	股関節、膝関節	加藤
第16回	2	関節運動学	足関節	加藤
第17回	2	関節運動学	頚椎、胸椎、呼吸運動	加藤
第18回	1	関節運動学	腰椎	加藤
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	吉川　将太
2		コミュニケーション論	開講時期	1年前期		
			授業時間	15		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	1 単位	講義	

科目概要・目的

医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身につける。また傾聴の意味を理解し、医療人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。

教育目標該当項目：
①②④

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード

コミュニケーション・対人関係技法・個人情報、情報管理・プロフェッショナリズム

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	コミュニケーションとは	接遇の5原則について理解する	吉川
第2回	2	自分を理解する	自分の性格・態度・傾向を知る	吉川
第3回	1	第1回・第2回のまとめ	接遇のまとめ	吉川
第4回	2	コミュニケーション力①	聞く力を養う演習①	吉川
第5回	2	コミュニケーション力②	聞く力を養う演習②	吉川
第6回	1	コミュニケーション力③	伝える力を養う演習	吉川
第7回	2	話し方について	話す力を養う演習	吉川
第8回	2	ノンバーバルコミュニケーションとは	ノンバーバルコミュニケーションについて理解する	吉川
第9回	1	総括	まとめ	吉川
評価方法		課題の提出状況(60%)及び筆記試験の結果(40%)にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	姉帯 飛高
3		情報統計論	開講時期	1年通年		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的

理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、1) レントゲン、CT、MRI等より得られた画像から必要な情報を抽出し、解釈・応用する方法を実戦的に学習する。2) 研究法や統計データの取り扱いについて学び、文献検索と客観的・批判的精読を通じて情報を取捨選択する過程を学習する。3) 文献抄読会を行い、パソコンの基本操作やプレゼンテーションの基礎を理解する。

教育目標該当項目：
②③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
画像解剖コンパクトナビ

キーワード
画像診断、X線、CT、MRI、研究法、EBM、EBPT、記述統計一般、文献抄読、批判的吟味

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	画像医学総論	X線、CT、MRI	姉帯
第2回	2	画像解剖学	頭部（脳）の画像解剖学	姉帯
第3回	1	画像解剖学	脊柱（運動器）の画像解剖学	姉帯
第4回	2	画像解剖学	上肢（運動器）の画像解剖学	姉帯
第5回	2	画像解剖学	上肢（運動器）の画像解剖学	姉帯
第6回	1	画像解剖学	下肢・骨盤（運動器）の画像解剖学	姉帯
第7回	2	画像解剖学	下肢・骨盤（運動器）の画像解剖学	姉帯
第8回	2	画像解剖学	胸部内臓の画像解剖学	姉帯
第9回	1	研究と統計学①	研究の意義と目的、EBM、EBPT	姉帯
第10回	2	研究と統計学②	記述統計と推測統計	姉帯
第11回	2	文献検索とパソコンの基本操作	J-STAGE、Pubmed等の利用方法、MS Officeの使い方	姉帯
第12回	1	文献抄読と資料作成①	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成	姉帯
第13回	2	文献抄読と資料作成②	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成	姉帯
第14回	2	文献抄読と資料作成③	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成	姉帯
第15回	1	文献抄読と資料作成④	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成	姉帯
第16回	2	文献抄読会①	文献抄読の成果発表	姉帯
第17回	2	文献抄読会②	文献抄読の成果発表	姉帯
第18回	1	文献抄読会③	文献抄読の成果発表	姉帯
評価方法		筆記試験100%により評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	神保　忍
4		心理学	開講時期	1年後期		
			授業時間	30		
		□ 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位 講義

科目概要・目的

クライエントの状態は、「total person」の観点から理解する。そのためには、クライエントの人格、能力、発達段階、置かれている状況などをアセスメントする必要がある。さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。

教育目標該当項目：
①②④

教科書（著者/書名/発行所）
心理学【カレッジ版】/医学書院

キーワード
防衛機制，心理検査，発達心理

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	オリエンテーション	心理学的なものの捉え方・アセスメントについて学ぶ。	神保
第2回	2	基礎理論	防衛機制と転移	神保
第3回	1	基礎理論	防衛機制と転移	神保
第4回	2	基礎理論	学習，記憶，行動	神保
第5回	2	発達心理	児童・青年期・成人・高齢者心理	神保
第6回	1	臨床心理	患者・障害者心理	神保
第7回	2	心理検査（1）	投影法について理解する。	神保
第8回	2	心理検査（2）	投影法について理解する。	神保
第9回	1	心理検査（3）	質問紙法について理解する。	神保
第10回	2	心理検査（4）	作業検査法・知能検査について理解する。	神保
第11回	2	心理検査（5）	知能検査について理解する。	神保
第12回	1	第7回から第11回のまとめ	心理検査のまとめ	神保
第13回	2	心理検査（6）	知能検査について理解する。	神保
第14回	2	心理検査（7）	特殊知能検査について理解する。	神保
第15回	1	心理検査（8）	行動療法について理解する。	神保
第16回	2	心理検査（9）	来談者中心療法について理解する。	神保
第17回	2	DSM	主な精神疾患とその特徴について理解する。	神保
第18回	1	まとめ	総括を行う。	神保
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	小松　昌久
5		人間発達学	開講時期	1年後期		
			授業時間	45		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	3 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、胎児期から老年期に至る人間の発達を通し、各発達段階における心身の成長および運動獲得について学ぶ。

教育目標該当項目:
①②

教科書(著者/書名/発行所)
イラストでわかる　人間発達学

キーワード
発達の基本法則、発達理論、発達段階、原始反射、姿勢反射／反応、運動発達

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	概論	発達に関わる言葉	小松
第2回	2	発達の基本法則①	発達の方向、発達の順序など	小松
第3回	1	発達の基本法則②	発達の方向、発達の順序など	小松
第4回	2	発達理論①	発達段階(ライフステージ)の分類、精神分析的発達理論	小松
第5回	2	発達理論②	リビドー発達理論、心理社会的発達論	小松
第6回	1	発達理論③	学習理論、神経成熟理論	小松
第7回	2	胎児期	胎児期の発達の特徴	小松
第8回	2	胎児期	脳の形成	小松
第9回	1	胎児期	遺伝	小松
第10回	2	新生児期	新生児期の発達の特徴	小松
第11回	2	新生児期	分娩による循環動態の変化	小松
第12回	1	新生児期	新生児仮死など	小松
第13回	2	発達検査①	発達検査について	小松
第14回	2	発達検査②	発達検査について	小松
第15回	1	発達検査③	発達検査について	小松
第16回	2	原始反射、姿勢反射／反応①	原始反射、姿勢反射／反応について	小松
第17回	2	原始反射、姿勢反射／反応②	原始反射、姿勢反射／反応について	小松
第18回	1	原始反射、姿勢反射／反応③	原始反射、姿勢反射／反応について	小松
第19回	2	運動発達①	0～3ヶ月の運動発達	小松
第20回	2	運動発達②	4～6ヶ月の運動発達	小松
第21回	1	運動発達③	7～9ヶ月の運動発達	小松
第22回	2	運動発達④	10～12ヶ月の運動発達	小松
第23回	2	運動発達⑤	13～18ヶ月の運動発達	小松
第24回	1	運動発達⑥	学童・青年期の発達	小松
第25回	2	運動発達⑦	成人・老年期の発達	小松
第26回	2	まとめ①	まとめ	小松
第27回	1	まとめ②	まとめ	小松
評価方法		筆記試験(100%)にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	加藤　幸弘
6		基礎運動学	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	1 単位	演習	

科目概要・目的

理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。

教育目標該当項目：
③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
基礎運動学　第6版補訂/医歯薬出版
観察による歩行分析/医学書院

キーワード
栄養・中枢制御・姿勢・歩行・運動学習

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	生体の構造と機能	栄養とエネルギー代謝	加藤
第2回	2	生体の構造と機能	運動の中枢神経機構	加藤
第3回	1	生体の構造と機能	運動の中枢神経機構	加藤
第4回	2	生体の構造と機能	運動の中枢神経機構	加藤
第5回	2	運動と動作の分析	運動学的分析、動作・作業分析	加藤
第6回	1	体力と運動処方	動作分析の方法、運動処方	加藤
第7回	2	姿勢	重心、立位姿勢の安定性	加藤
第8回	2	姿勢	姿勢分類	加藤
第9回	1	姿勢	立位での姿勢戦略	加藤
第10回	2	歩行	歩行周期	加藤
第11回	2	歩行	運動力学的分析	加藤
第12回	1	歩行	運動力学的分析	加藤
第13回	2	歩行	各相の運動学と運動力学①	加藤
第14回	2	歩行	各相の運動学と運動力学②	加藤
第15回	1	歩行	各相の運動学と運動力学③	加藤
第16回	2	走行・階段昇降	走行・歩行周期	加藤
第17回	2	運動学習	運動学習理論	加藤
第18回	1	運動学習	練習と訓練	加藤
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	植竹　教嗣
7		生活環境論	開講時期	1年後期		
			授業時間	60		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	4 単位	講義	

科目概要・目的

理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業であり、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在する生活環境を学ぶ。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。

教育目標該当項目：
①②④

教科書（著者/書名/発行所）

理学療法学テキストⅤ　日常生活活動（ADL）第2版/医学書院
シンプル理学療法作業療法シリーズ　生活環境学テキスト　改訂第2版　南江堂

キーワード

家族、家庭・住環境・地域環境・職場環境・環境の構造・環境と固体

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	生活環境学の概念	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティについて理解する	植竹
第2回	2			
第3回	1	第1回，第2回のまとめ	概念のまとめ	植竹
第4回	2	生活環境を構成する要素	生活環境を構成する要素について理解する	植竹
第5回	2	日本家屋の問題点	日本家屋においての問題点を理解する	植竹
第6回	1	第4回，第5回のまとめ	構成する要素のまとめ	植竹
第7回	2	日常生活活動の概念	日常生活活動の概念や範囲を理解する	植竹
第8回	2	日常生活活動の評価	日常生活活動の評価を説明できる	植竹
第9回	1	第7回，第8回のまとめ	日常生活活動のまとめ	植竹
第10回	2	車椅子	車椅子の分類・種類・指導方法について理解する	植竹
第11回	2	歩行補助具	歩行補助具の種類・機能・適応について理解する	植竹
第12回	1	第10回，第11回のまとめ	車椅子，歩行補助具のまとめ	植竹
第13回	2	自助具	自助具の種類・機能・適応について理解する	植竹
第14回	2			植竹
第15回	1	第13回，第14回のまとめ	自助具のまとめ	植竹
第16回	2	物理的環境・経済的環境	物理的環境，経済的環境について理解する	植竹
第17回	2	制動的環境・人的環境	制度的環境，人的環境について理解する	植竹
第18回	1	第16回，第17回のまとめ	環境面のまとめ	植竹
第19回	2	生活環境整備の基本①	段差・スペース・床材	植竹
第20回	2	生活環境整備の基本②	手すり、建具	植竹
第21回	1	第19回，20回のまとめ	環境整備のまとめ	植竹
第22回	2	玄関・アプローチの環境整備	玄関スペース、スロープ	植竹
第23回	2	廊下・階段の環境整備	廊下の寸法、階段整備の考え方	植竹
第24回	1	第22回，23回のまとめ	環境整備のまとめ①	植竹
第25回	2	トイレの環境整備	トイレ整備の実際	植竹
第26回	2	浴室・脱衣室・台所・食道の環境整備	浴室への扉，浴槽	植竹
第27回	1	居間・寝室の環境整備	照明，スイッチ・コンセント	植竹
第28回	2	住宅・住宅改修	生活環境としての住宅・住宅改修	植竹
第29回	2	住宅改修の実践	建築知識の基本と図面化	植竹
第30回	1	第28回，第29回のまとめ	住宅改修のまとめ	植竹
第31回	2	住環境整備の基本的配慮	住宅部位への配慮	植竹
第32回	2		各部屋への配慮	植竹
第33回	1	第31回，第32回のまとめ	住環境整備のまとめ	植竹
第34回	2	地域環境と公共交通	地域環境と公共交通について理解する	植竹
第35回	2	総括	総復習と臨床応用	植竹
第36回	1	総括	総復習と臨床応用	植竹
評価方法		出席状況を10%、筆記試験を90%として評価する		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	熊澤　真理子
8		人体構造機能学Ⅰ	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		□ 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位　講義

科目概要・目的

理学療法士として施術を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。

教育目標該当項目:
③⑤

教科書(著者/書名/発行所)
標準理学療法学・作業療法学 生理学 医学書院

キーワード
細胞、感覚器、血液、体温調節、末梢神経、自律神経

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	細胞，血液	細胞生理，血液の成分，血液凝固，免疫機能	熊澤
第2回	2	循環	循環の調節，心筋の特性	熊澤
第3回	1	循環	心臓拍動の自動性と心拍出量	熊澤
第4回	2	消化と吸収	唾液分泌の機序，嚥下運動，胃内消化，腸内消化	熊澤
第5回	2	呼吸	呼吸運動，ガス交換とガスの運搬，呼吸中枢	熊澤
第6回	1	酸―塩基平衡	酸塩基平衡	熊澤
第7回	2	腎臓と排泄	尿の性状，糸球体・尿細管の機能，排尿機構	熊澤
第8回	2	内分泌	ホルモンとビタミン	熊澤
第9回	1	性と生殖	勃起，射精，排卵，月経，妊娠，出産	熊澤
第10回	2	筋の収縮	筋線維の構造と機能，筋収縮	熊澤
第11回	2	神経系	神経線維の構造，興奮と伝導，シナプス伝達	熊澤
第12回	1	神経系	反射，神経一筋接合部	熊澤
第13回	2	末梢神経	末梢神経	熊澤
第14回	2	中枢神経	中枢神経，可塑性	熊澤
第15回	1	自律神経	交感神経，副交感神経	熊澤
第16回	2	感覚	体性感覚，内臓感覚，視覚，聴覚，平衡覚，嗅覚	熊澤
第17回	2	代謝	代謝率，糖・蛋白・脂質代謝	熊澤
第18回	1	体温調節	体温調節中枢，熱の産生と放出	熊澤
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	姉帯 飛高
9		人体構造機能学Ⅱ	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、運動器（骨・関節・靭帯・骨格筋）それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。

教育目標該当項目：
③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
金子丑之助/日本人体解剖学　上下巻/南山堂

キーワード
運動器、骨、関節、靭帯、骨格筋、運動

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	解剖学総論	解剖学を学ぶことの意義、人体の構成単位	姉帯
第2回	2	骨関節学①	骨のマクロ構造とミクロ構造、機能、分類	姉帯
第3回	1	骨関節学②	関節の基本構造と分類、運動方向、靭帯	姉帯
第4回	2	骨学各論①	骨学実習：脊柱	姉帯
第5回	2	骨学各論②	骨学実習：脊柱	姉帯
第6回	1	骨学各論③	骨学実習：頭蓋	姉帯
第7回	2	骨学各論④	骨学実習：上肢	姉帯
第8回	2	骨学各論⑤	骨学実習：下肢・骨盤	姉帯
第9回	1	骨学各論⑥	骨学実習：下肢・骨盤	姉帯
第10回	2	筋学総論	筋のマクロ構造とミクロ構造、機能、分類	姉帯
第11回	2	筋学各論①	頭頸部・体幹の骨格筋	姉帯
第12回	1	筋学各論②	頭頸部・体幹の骨格筋	姉帯
第13回	2	筋学各論③	上肢の骨格筋	姉帯
第14回	2	筋学各論④	上肢の骨格筋	姉帯
第15回	1	筋学各論⑤	上肢の骨格筋	姉帯
第16回	2	筋学各論⑥	下肢の骨格筋	姉帯
第17回	2	筋学各論⑦	下肢の骨格筋	姉帯
第18回	1	筋学各論⑧	下肢の骨格筋	姉帯
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	姉帯 飛高
10		人体構造機能学Ⅲ	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、中枢神経系と末梢神経系の基本構成について学習し、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。

教育目標該当項目：
③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
金子丑之助/日本人体解剖学　上下巻/南山堂

キーワード
中枢神経、末梢神経、伝導路、脳神経、脊髄神経、神経叢

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	神経解剖学総論	ニューロン、中枢神経、末梢神経	姉帯
第2回	2	脳と脊髄の解剖学①	大脳の基本構成と機能、脳溝、脳回、脳葉	姉帯
第3回	1	脳と脊髄の解剖学②	大脳の機能局在	姉帯
第4回	2	脳と脊髄の解剖学③	間脳・脳幹・小脳の基本構成	姉帯
第5回	2	脳と脊髄の解剖学④	脊髄の基本構成、頸膨大、腰膨大	姉帯
第6回	1	脳と脊髄の解剖学⑤	神経線維構築、連合線維、交連線維、投射線維	姉帯
第7回	2	伝導路の解剖学①	錐体路、錐体外路の基本構成	姉帯
第8回	2	伝導路の解剖学②	下行性伝導路：皮質脊髄路、皮質核路	姉帯
第9回	1	伝導路の解剖学③	上行性伝導路：脊髄視床路、後索内側毛帯系	姉帯
第10回	2	脳神経の解剖学①	脳神経の基本構成と機能	姉帯
第11回	2	脳神経の解剖学②	脳神経の基本構成と機能	姉帯
第12回	1	脳神経の解剖学③	顔面頭蓋と鰓弓神経	姉帯
第13回	2	脊髄神経の解剖学①	脊髄神経の基本構成（肋間神経）	姉帯
第14回	2	脊髄神経の解剖学②	頸腕神経叢の基本構成	姉帯
第15回	1	脊髄神経の解剖学③	頸腕神経叢の基本構成	姉帯
第16回	2	脊髄神経の解剖学④	腰仙骨神経叢の基本構成	姉帯
第17回	2	脊髄神経の解剖学⑤	腰仙骨神経叢の基本構成	姉帯
第18回	1	自律神経の解剖学	交感神経、副交感神経、交感神経幹、大内臓神経	姉帯
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門基礎	担当者	姉帯 飛高
11		人体構造機能学Ⅳ	開講時期　1年前期 授業時間　30時間		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　2 単位	講義

科目概要・目的

理学療法士として5年間（一般病院2年、介護老人保健施設3年）の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器の基本構造を学び、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。

教育目標該当項目：
③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
金子丑之助/日本人体解剖学　上下巻/南山堂

キーワード
心臓、刺激伝導系、大循環、小循環、呼吸器、呼吸運動、ガス交換、消化器、泌尿生殖器

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	内臓系総論	体腔と内臓	姉帯
第2回	2	心大血管系の解剖学①	心臓の基本構造、大循環、小循環	姉帯
第3回	1	心大血管系の解剖学②	胎児循環	姉帯
第4回	2	心大血管系の解剖学③	冠状動脈、冠状静脈洞、刺激伝導系	姉帯
第5回	2	四肢・体幹の動脈・静脈	主要動静脈、触診、門脈系	姉帯
第6回	1	頭部の動静脈	ウィリスの大脳動脈輪、硬膜静脈洞	姉帯
第7回	2	呼吸器の解剖学①	呼吸路の基本構造	姉帯
第8回	2	呼吸器の解剖学②	肺の基本構造、胸膜洞、呼吸運動	姉帯
第9回	1	呼吸器の解剖学③	ガス交換	姉帯
第10回	2	消化器の解剖学①	消化器の基本構造と機能	姉帯
第11回	2	消化器の解剖学②	消化管の基本構造と機能、上皮組織	姉帯
第12回	1	消化器の解剖学③	消化腺の基本構造と機能、門脈、胆汁路	姉帯
第13回	2	泌尿生殖器の解剖学①	尿路の基本構造と機能、性差	姉帯
第14回	2	泌尿生殖器の解剖学②	腎臓のマクロ・ミクロ構造、ネフロン	姉帯
第15回	1	泌尿生殖器の解剖学③	外生殖器と内生殖器、内分泌系	姉帯
第16回	2	局所解剖学実習①	動物標本による局所解剖学実習	姉帯
第17回	2	局所解剖学実習②	動物標本による局所解剖学実習	姉帯
第18回	1	局所解剖学実習③	動物標本による局所解剖学実習	姉帯

評価方法	筆記試験100%にて評価する。

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門基礎	担当者	茂木　真 小川　朋郁
12		人体構造機能学Ⅴ	開講時期　1年前期 授業時間　90		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　6 単位	講義

科目概要・目的
理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、人体構造機能学で学んだ骨・靭帯・筋・神経・動脈について、模型のデッサンや触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。

教育目標該当項目：
③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
機能解剖学的　触診技術　改訂第2版
上肢、下肢/メジカルビュー社

キーワード
上肢の骨と筋、下肢の骨と筋、中枢神経、伝導路

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	肩甲骨、上腕骨	肩甲骨、上腕骨の解剖を理解する	茂木・小川
第2回	2	橈骨、尺骨、手根骨	橈骨頭、尺骨、手根骨を理解する	茂木・小川
第3回	1	第1回、第2回のまとめ	上肢の骨のまとめ	茂木・小川
第4回	2	肩関節に関わる筋	肩関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第5回	2	肩関節に関わる筋	肩関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第6回	1	第4回、第5回のまとめ	肩関節の筋のまとめ	茂木・小川
第7回	2	肘関節、手関節に関わる筋	肘関節、手関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第8回	2	肘関節、手関節に関わる筋	肘関節、手関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第9回	1	第7回、第8回のまとめ	肘関節、手関節の筋のまとめ	茂木・小川
第10回	2	骨盤、股関節	骨盤、股関節を理解する	茂木・小川
第11回	2	脛骨、腓骨、足根骨	脛骨、腓骨、足根骨を理解する	茂木・小川
第12回	1	第10回、第11回のまとめ	下肢の骨のまとめ	茂木・小川
第13回	2	股関節に関わる筋	股関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第14回	2	股関節に関わる筋	股関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第15回	1	第13回、第14回のまとめ	股関節の筋のまとめ	茂木・小川
第16回	2	膝関節、足関節に関わる筋	膝関節、足関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第17回	2	膝関節、足関節に関わる筋	膝関節、足関節に関わる筋を理解する	茂木・小川
第18回	1	第16回、第17回のまとめ	膝関節、足関節の筋のまとめ	茂木・小川
第19回	2	中枢神経	大脳の基本構造	茂木・小川
第20回	2	伝導路	上行性伝導路と下行性伝導路	茂木・小川
第21回	1	第19回、第20回のまとめ	中枢神経、伝導路のまとめ	茂木・小川
第22回	2	脳神経	脳神経の機能	茂木・小川
第23回	2	脳神経	脳神経の機能	茂木・小川
第24回	1	第22回、第23回のまとめ	脳神経のまとめ	茂木・小川
第25回	2	肩甲骨の触察	肩甲棘、肩峰、棘三角、肩甲骨内側縁	茂木・小川
第26回	2	肩甲骨の触察	上角、下角、肩甲骨外側縁、烏口突起、鎖骨体	茂木・小川
第27回	1	肩甲骨の触察	肩甲骨の触察まとめ	茂木・小川
第28回	2	上腕骨の触察	大結節、小結節、結節間溝	茂木・小川
第29回	2	上腕骨の触察	上腕骨小頭、上腕骨滑車、肘頭窩、尺骨神経溝	茂木・小川
第30回	1	上肢筋の触察	三角筋、大胸筋、棘上筋、棘下筋	茂木・小川
第31回	2	上肢筋の触察	小円筋、大円筋、肩甲下筋、広背筋、烏口腕筋	茂木・小川
第32回	2	上肢筋の触察	僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋	茂木・小川
第33回	1	上肢筋の触察	小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕筋、腕橈骨筋	茂木・小川
第34回	2	上肢筋の触察	上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、方形回内筋、回外筋	茂木・小川
第35回	2	前腕骨の触察	橈骨頭、橈骨茎状突起、リスター結節、肘頭，尺骨	茂木・小川
第36回	1	手根骨の触察	豆状骨、舟状骨、有頭骨、有鉤骨鉤、中手骨	茂木・小川
第37回	2	上肢筋の触察	長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋	茂木・小川
第38回	2	上肢筋の触察	長橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、 示指伸筋、小指伸筋	茂木・小川
第39回	1	上肢筋の触察	長母指伸筋、短母指伸筋、長母指屈筋、短母指屈筋	茂木・小川
第40回	2	寛骨の触察	腸骨稜、上前腸骨棘、下前腸骨棘、上後腸骨棘	茂木・小川
第41回	2	下肢骨の触察	大転子、大腿骨頭、膝蓋骨、大腿骨内側上顆、	茂木・小川
第42回	1	下肢骨の触察	坐骨結節、内転筋結節、脛骨内側顆、脛骨外側顆、 脛骨粗面、腓骨頭	茂木・小川
第43回	2	下肢筋の触察	腸腰筋、縫工筋、大腿筋膜張筋	茂木・小川
第44回	2	下肢筋の触察	中殿筋、小殿筋、大殿筋、梨状筋、大腿方形筋	茂木・小川

第45回	1	下肢筋の触察	上双子筋、下双子筋、内閉鎖筋	茂木・小川
第46回	2	下肢筋の触察	長内転筋、大内転筋、大腿直筋、内側広筋、外側広筋	茂木・小川
第47回	2	下肢筋の触察	中間広筋、半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋	茂木・小川
第48回	1	下肢筋の触察	薄筋、膝窩筋、前脛骨筋	茂木・小川
第49回	2	足根骨の触察	内果、外果、距骨、踵骨隆起、載距突起	茂木・小川
第50回	2	下肢筋の触察	長趾伸筋、腓腹筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、腓骨筋	茂木・小川
第51回	1	下肢筋の触察	長趾屈筋、長母趾屈筋、母指外転筋	茂木・小川
第52回	2	頭部、椎体	頭部、椎体を理解する	茂木・小川
第53回	2	体幹の触察	外後頭隆起、第7頸椎棘突起、第4腰椎棘突起、 胸骨柄、胸骨切痕、胸骨体、剣状突起、第12肋骨	茂木・小川
第54回	1	第49回から第53回のまとめ	体幹の触察のまとめ	茂木・小川
評価方法		筆記試験、実技試験、レポート課題で総合的に評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	神保　忍
13		精神疾患論	開講時期	1年後期		
			授業時間	30		
		□ 実務経験のある教員による授業	単位数	1 単位	演習	

科目概要・目的

理学療法の実施にあたって、根幹となる精神障害者の心理および行動特性を理解しておくことが重要である。
精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。

教育目標該当項目:
③⑤①

教科書(著者/書名/発行所)
上野武治　編
「標準理学療法学・作業療法学
専門基礎分野　精神医学　第4版」
医学書院

キーワード
こころ, 統合失調症, うつ病, ストレス関連障害, 精神遅滞, てんかん

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	精神医学の概念	精神医学の概念について	神保
第2回	2	脳とこころ・こころの病	脳とこころ、及びこころの病について	神保
第3回	1	こころの構造とはたらき	フロイト理論に於ける	神保
第4回	2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因と分類について	神保
第5回	2	主な精神症状・主な精神状態	主な精神症状と状態について	神保
第6回	1	第1回から第5回のまとめ	概念、疫学、病因、症候のまとめ	神保
第7回	2	疾患の理解①	器質性精神障害	神保
第8回	2	疾患の理解②	統合失調症、統合失調症様障害	神保
第9回	1	疾患の理解③	気分障害、躁うつ病、うつ病	神保
第10回	2	疾患の理解④	神経症性障害、ストレス関連障害	神保
第11回	2	疾患の理解⑤	身体表現性障害	神保
第12回	1	疾患の理解⑥	摂食障害、非器質性睡眠障害	神保
第13回	2	疾患の理解⑦	成人のパーソナリティ及び行動の障害	神保
第14回	2	疾患の理解⑧	広汎性発達障害、特異的発達障害	神保
第15回	1	疾患の理解⑨	精神遅滞	神保
第16回	2	疾患の理解⑩	行動および情動の障害(注意欠陥・多動性障害)	神保
第17回	2	疾患の理解⑪	てんかん	神保
第18回	1	社会・文化とメンタルヘルス	社会とメンタルヘルスの関わりについて	神保
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田　誠
14		基礎病態論	開講時期	1年通年		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、解剖生理学的知識をもとに様々な疾病の成因や病態を明らかにしようとする学問である。神経・運動器疾患やその他の疾患の成因や病態を理解しておくことは、理学療法を学ぶ上で重要であり、理解する必要がある。
教育目標該当項目：
③④

教科書（著者/書名/発行所）
カラーで学べる病理学　第4版/ヌーヴェルヒロカワ

キーワード
炎症、アレルギー、進行性・退行性病変、腫瘍、奇形・遺伝病

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	細胞組織とその障害	基礎医学系確認	持田
第2回	2	細胞組織とその障害	変性、壊死、虚血、萎縮	持田
第3回	1	細胞組織とその障害	変性、壊死、虚血、萎縮	持田
第4回	2	再生と修復	損傷治癒	持田
第5回	2	再生と修復	損傷治癒	持田
第6回	1	循環障害	充血、うっ血、出血と凝固	持田
第7回	2	循環障害	梗塞、浮腫	持田
第8回	2	循環障害	高血圧	持田
第9回	1	炎症	炎症メカニズム	持田
第10回	2	炎症	急性炎症	持田
第11回	2	炎症	慢性炎症	持田
第12回	1	免疫とアレルギー	免疫系について	持田
第13回	2	免疫とアレルギー	免疫系について	持田
第14回	2	感染症	細菌性とウイルス性について	持田
第15回	1	代謝異常	基礎医学系確認	持田
第16回	2	代謝異常	代表的疾患	持田
第17回	2	腫瘍	腫瘍の違いについて	持田
第18回	1	腫瘍	腫瘍の違いについて	持田
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田　太郎 瀬戸　勲
15		内部障害論	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位　講義

科目概要・目的

理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、吸引やAEDの使用方法について学ぶ。また、薬物の作用機序や副作用などについても学習する。この領域は生命に与える影響が大きく、リスク管理についても厳格に進めなければならない。そのため、正しい知識の習得が目標となる。

教育目標該当項目：
①②③

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
循環器、呼吸器、消化器、肝胆膵、血液、造血、代謝、内分泌、腎・泌尿器、免疫、アレルギー、膠原病、感染

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	吸引	吸引について	瀬戸
第2回	2	吸引	吸引がモデルを用いて実施できる	瀬戸
第3回	1	吸引	吸引がモデルを用いて実施できる	瀬戸
第4回	2	一次救命処置（BLS）	一次救命処置（BLS）について	瀬戸
第5回	2	一次救命処置（BLS）	一次救命処置（BLS）について	瀬戸
第6回	1	一次救命処置（BLS）	一次救命処置（BLS）について	瀬戸
第7回	2	一次救命処置（BLS）	AEDの使用方法	瀬戸
第8回	2	一次救命処置（BLS）	AEDの使用方法	瀬戸
第9回	1	一次救命処置（BLS）	AEDの使用方法	瀬戸
第10回	2	薬物の基本的事項	薬物の作用機序、体内動態など	持田
第11回	2	薬物の基本的事項	薬物の作用機序、体内動態など	持田
第12回	1	薬物の基本的事項	薬物の作用機序、体内動態など	持田
第13回	2	対象疾患に対する薬物療法	各対象疾患に対する薬物療法について	持田
第14回	2	対象疾患に対する薬物療法	各対象疾患に対する薬物療法について	持田
第15回	1	対象疾患に対する薬物療法	各対象疾患に対する薬物療法について	持田
第16回	2	薬物の副作用	薬物の副作用について	持田
第17回	2	薬物の副作用	薬物の副作用について	持田
第18回	1	薬物の副作用	薬物の副作用について	持田
評価方法		筆記試験、提出課題、出席状況で総合的に判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	加藤　幸弘
16		機能障害論	開講時期	1年後期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、身体機能の障害を理解することは理学療法を行う上で重要となる。特に疼痛のメカニズム、心臓、肺においての機能とその障害について生理学の復習を兼ねて理解する。

教育目標該当項目：
①③④

教科書（著者/書名/発行所）
特に定めない

キーワード
痛み，肺の機能，心臓の機能，関節拘縮

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	痛みのメカニズム	疼痛の発生メカニズム	加藤
第2回	2	急性痛と慢性痛	急性痛と慢性痛①	加藤
第3回	1	急性痛と慢性痛	急性痛と慢性痛②	加藤
第4回	2	痛みの病態	痛みの抑制メカニズム	加藤
第5回	2	慢性疼痛と臨床医学	関節拘縮、筋筋膜性疼痛	加藤
第6回	1	慢性疼痛と臨床医学	CRPS	加藤
第7回	2	呼吸器疾患	呼吸の仕組み	加藤
第8回	2	呼吸器疾患	呼吸不全とは①	加藤
第9回	1	呼吸器疾患	呼吸不全とは②	加藤
第10回	2	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患の病態①	加藤
第11回	2	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患の病態②	加藤
第12回	1	循環器疾患	心機能	加藤
第13回	2	循環器疾患	心機能とその障害	加藤
第14回	2	循環器疾患	心不全と心機能障害①	加藤
第15回	1	循環器疾患	心不全と心機能障害②	加藤
第16回	2	循環器疾患	虚血性心疾患と心機能障害①	加藤
第17回	2	循環器疾患	虚血性心疾患と心機能障害②	加藤
第18回	1	関節拘縮	拘縮の病態	加藤
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	加藤　幸弘
17		整形障害論	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションで、対象となる主に骨関節障害の病態を画像とともに理解し、一般的に行われている整形外科的治療を理解する。

教育目標該当項目：
①③④

教科書（著者/書名/発行所）
標準整形外科学　第14版/医学書院

キーワード
①全身性障害の病態
②局所障害の病態
③画像評価の方法

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	整形外科の基礎科学	骨・関節・関節軟骨の構造、病態病理・修復と再生	加藤
第2回	2	整形外科診断・治療総論	診療の基本、検査、保存療法、手術療法	加藤
第3回	1	整形外科診断・治療総論	診療の基本、検査、保存療法、手術療法	加藤
第4回	2	整形外科疾患総論	感染症、関節リウマチとその類縁疾患	加藤
第5回	2	整形外科疾患総論	変形性関節症とその類縁疾患、四肢循環障害	加藤
第6回	1	整形外科疾患総論	阻血性壊死・先天性骨系統疾患、先天異常症候群	加藤
第7回	2	整形外科疾患総論	代謝性骨疾患、骨・軟部腫瘍	加藤
第8回	2	整形外科疾患各論	肩関節、肘関節	加藤
第9回	1	整形外科疾患各論	手関節と手	加藤
第10回	2	整形外科疾患各論	頸椎、胸郭、腰椎	加藤
第11回	2	整形外科疾患各論	股関節、膝関節	加藤
第12回	1	整形外科疾患各論	足関節と足	加藤
第13回	2	整形外科外傷学	外傷総論、軟部組織損傷	加藤
第14回	2	整形外科外傷学	成人の骨折と脱臼	加藤
第15回	1	整形外科外傷学	成人の骨折と脱臼	加藤
第16回	2	整形外科外傷学	小児の骨折	加藤
第17回	2	整形外科外傷学	脊椎損傷、末梢神経損傷	加藤
第18回	1	整形外科外傷学	脊椎損傷、末梢神経損傷	加藤
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎	担当者	持田　誠
18		臨床病態論	開講時期 1年後期 授業時間 60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数 4 単位	講義

科目概要・目的

理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、病理学の基礎、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見を学ぶ。

教育目標該当項目：
①③④

教科書（著者/書名/発行所）
カラーで学べる病理学　第4版/ヌーヴェルヒロカワ

キーワード
心筋梗塞、狭心症、心不全、弁膜症、膵炎、肝炎、胆嚢炎

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第2回	2	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第3回	1	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第4回	2	循環器系	心筋梗塞、狭心症、弁膜症、心不全	持田
第5回	2	循環器系	血管疾患	持田
第6回	1	呼吸器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第7回	2	呼吸器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第8回	2	呼吸器系	循環不全、呼吸不全	持田
第9回	1	呼吸器系	炎症性疾患	持田
第10回	2	消化器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第11回	2	消化器系	食道、胃、腸病変	持田
第12回	1	消化器系	膵炎、肝炎、胆嚢炎	持田
第13回	2	内分泌系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第14回	2	内分泌系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第15回	1	内分泌系	主な疾患	持田
第16回	2	造血系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第17回	2	造血系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第18回	1	造血系	造血性疾患	持田
第19回	2	造血系	免疫性疾患	持田
第20回	2	腎泌尿器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第21回	1	腎泌尿器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第22回	2	腎泌尿器系	主な疾患	持田
第23回	2	脳神経系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第24回	1	脳神経系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第25回	2	感覚器系	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第26回	2	脳神経系	主な疾患	持田
第27回	1	感覚器系	主な疾患	持田
第28回	2	生殖器・乳腺・その他	関連した基礎医学系知識の確認	持田
第29回	2	生殖器・乳腺・その他	主な疾患	持田
第30回	1	生殖器・乳腺・その他	主な疾患	持田
第31回	2	リハビリテーションと栄養	栄養素の種類と働き、栄養素の吸収・代謝	持田
第32回	2	リハビリテーションと栄養	食事と食品、ライフステージと栄養	持田
第33回	1	リハビリテーションと栄養	臨床栄養、健康づくりと食生活	持田
第34回	2	救急救命法①	救急救命法①	持田
第35回	2	救急救命法②	救急救命法②	持田
第36回	1	救急救命法③	救急救命法③	持田
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	茂木　真
19		神経障害論	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、各論として、神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について学習する。特に、リハビリテーション医療対象の難病などについては重要である。

教育目標該当項目:
①③④

教科書(著者/書名/発行所)
川平和美/標準理学療法学・作業療法学　神経内科学　第4版/医学書院

キーワード
脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	神経症候学①	意識障害、頭痛、めまい、錐体路徴候	茂木
第2回	2	神経症候学②	錐体外路徴候、運動失調	茂木
第3回	1	神経症候学③	感覚障害	茂木
第4回	2	神経症候学④	失語症、失認、失行	茂木
第5回	2	神経症候学⑤	記憶障害、注意障害、遂行機能障害	茂木
第6回	1	神経症候学⑥	構音障害、嚥下障害	茂木
第7回	2	脳血管障害①	総論(血管などの脳循環や疫学)を理解する。	茂木
第8回	2	脳血管障害②	〃	茂木
第9回	1	脳血管障害③	虚血性脳血管障害について理解する。	茂木
第10回	2	パーキンソン病	正常な大脳基底核の機能から病態生理を理解する。	茂木
第11回	2	パーキンソン病	主症状や薬物療法、経過について理解する。	茂木
第12回	1	パーキンソン病関連疾患	パーキンソニズムについて理解する。	茂木
第13回	2	筋萎縮性側索硬化症	疾患概要や病態生理を理解する。	茂木
第14回	2	多発性硬化症	病態生理・主症状について理解する。	茂木
第15回	1	てんかん、頭部外傷	部分発作と全体発作、頭部外傷	茂木
第16回	2	脊髄小脳変性症	小脳の機能と協調運動障害	茂木
第17回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	病態生理、主症状について理解する。	茂木
第18回	1	感染性・中毒性疾患	各疾患の病態生理や主症状について理解する。	茂木
評価方法		筆記試験にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	瀬戸　勲
20		リハビリテーション概論Ⅰ	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的

理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、理学療法士の立場から保健・医療・福祉に関わる業務を実施する上で必要となる諸制度について理解する。

また、理学療法の対象者の様々なニーズに対応ができるように、保健・医療・福祉に係る法制度の動向やサービスの内容を理解する。

教育目標該当項目：
①②④

教科書（著者/書名/発行所）
庄本康治／PT・OTビジュアルテキスト理学療法概論／羊土社

キーワード
リハビリテーション、バリアフリー、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、QOL、医療・福祉制度、法規、個人情報保護法、医療安全、クリニカルパス、EBM、ICIDH、ICF

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	理学療法・リハビリテーションとは	概念・定義・歴史・目的を理解する	瀬戸
第2回	2	リハビリテーションに影響を与えた理念・思想	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・QOLについて理解する	瀬戸
第3回	1			瀬戸
第4回	2	理学療法士を取り巻く法令制度	「理学療法士及び作業療法士法」と理学療法士に関わる医療関連の法律について理解する	瀬戸
第5回	2			瀬戸
第6回	1			瀬戸
第7回	2	個人情報の管理と対象者の権利	個人情報保護法について理解する	瀬戸
第8回	2		カルテや記録の保管・管理について理解する	瀬戸
第9回	1			瀬戸
第10回	2	理学療法に関わる国際分類	ICIDH・ICFについて理解する	瀬戸
第11回	2		ICIDH・ICFを実践することで理解を深める	瀬戸
第12回	1			瀬戸
第13回	2	クリニカルパス・EBM	クリニカルパス・EBMについて理解する	瀬戸
第14回	2	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて理解する	瀬戸
第15回	1	医療事故とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する	瀬戸
第16回	2	理学療法の対象	理学療法の対象疾患や障害を理解する	瀬戸
第17回	2			瀬戸
第18回	1		対象者との関わり方について理解する	瀬戸
評価方法		筆記試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況で総合的に判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	瀬戸　勲
21		多職種連携論	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	2 単位	講義	

科目概要・目的

患者・家族に対して最適な医療を効率的に提供するためには、職種間協働に基づく「チーム医療」の推進が必要である。理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、健康・医療・福祉の専門職を目指す者として、対象者を中心としたチーム医療の意義、他職種連携を通じた調整や教育的役割を担う能力を学ぶ。

教育目標該当項目：
①②④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
チーム医療、地域理学療法、医療・福祉制度、法規、医療安全、感染予防、難病

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	チーム医療の中での専門職種	医療・福祉の専門職種について理解する	瀬戸
第2回	2			瀬戸
第3回	1			瀬戸
第4回	2	多職種連携	組織やリハビリテーション・チームにおける理学療法士の役割と他職種との連携について理解する	瀬戸
第5回	2			瀬戸
第6回	1			瀬戸
第7回	2	社会保障制度	医療保険制度・介護保険制度などについて理解する	瀬戸
第8回	2			瀬戸
第9回	1	施設基準と診療報酬	理学療法に係る施設基準と診療報酬について理解する	瀬戸
第10回	2	社会福祉の分野とサービス	社会福祉六法について理解する	瀬戸
第11回	2	障害者手帳	各種法律・手帳について理解する	瀬戸
第12回	1	高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法	高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法について理解する	瀬戸
第13回	2	難病	国の難病対策について理解する	瀬戸
第14回	2	感染予防	感染予防について理解する	瀬戸
第15回	1			瀬戸
第16回	2	地域理学療法・地域包括ケアシステム	地域理学療法・地域包括ケアシステムについて理解する	瀬戸
第17回	2	理学療法士を目指す学生に求められるもの	理学療法士を目指す学生に求められるものについて理解する	瀬戸
第18回	1			瀬戸
評価方法		筆記試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況で総合的に判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川　朋郁 茂木　真
22		理学療法総論	開講時期	1年前期		
			授業時間	60		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位　演習

科目概要・目的

理学療法士の業務において「症状・障害の理解」と「理学療法介入」は必要事項である。理学療法士として診療所6年の実務経験を活かした授業で、理学療法の対象となる代表的な症状・障害について学習し、症状・障害と理学療法士の関わりについて理解を示すことを目的とする。

教育目標該当項目：
①②④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
倫理、資質、心理、症状・障害、運動療法、急性期、回復期、慢性期

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	総論	オリエンテーション	小川・茂木
第2回	2	総論	倫理とは	小川・茂木
第3回	1	総論	哲学とは	小川・茂木
第4回	2	理学療法士の職域	理学療法士の主な職場	小川・茂木
第5回	2	理学療法士の職域	理学療法士の主な職場	小川・茂木
第6回	1	理学療法士の職域	理学療法士の主な職場	小川・茂木
第7回	2	適性と資質	医療人に求められるもの	小川・茂木
第8回	2	適性と資質	医療人に求められるもの	小川・茂木
第9回	1	適性と資質	医療人に求められるもの	小川・茂木
第10回	2	適性と資質	理学療法士としての適性と資質	小川・茂木
第11回	2	適性と資質	理学療法士としての適性と資質	小川・茂木
第12回	1	適性と資質	理学療法士としての適性と資質	小川・茂木
第13回	2	理学療法と心理	対象者の心理を理解する	小川・茂木
第14回	2	理学療法と心理	対象者の心理を理解する	小川・茂木
第15回	1	理学療法と心理	対象者の心理を理解する	小川・茂木
第16回	2	理学療法と学問	学ぶということ	小川・茂木
第17回	2	理学療法と学問	学ぶということ	小川・茂木
第18回	1	理学療法と学問	学ぶということ	小川・茂木
第19回	2	理学療法の対象	臨床における対象を理解する	小川・茂木
第20回	2	理学療法の対象	臨床における対象を理解する	小川・茂木
第21回	1	理学療法の対象	臨床における対象を理解する	小川・茂木
第22回	2	理学療法の方法	運動療法・物理療法	小川・茂木
第23回	2	理学療法の方法	運動療法・物理療法	小川・茂木
第24回	1	理学療法の方法	運動療法・物理療法	小川・茂木
第25回	2	リスクマネジメント	医療におけるリスクマネジメントを理解する	小川・茂木
第26回	2	リスクマネジメント	医療におけるリスクマネジメントを理解する	小川・茂木
第27回	1	リスクマネジメント	医療におけるリスクマネジメントを理解する	小川・茂木
第28回	2	症状・障害の理解	脳卒中について理解する	小川・茂木
第29回	2	症状・障害の理解	脳卒中について理解する	小川・茂木
第30回	1	症状・障害の理解	脳卒中について理解する	小川・茂木
第31回	2	症状・障害の理解	神経・筋疾患について理解する	小川・茂木
第32回	2	症状・障害の理解	神経・筋疾患について理解する	小川・茂木
第33回	1	症状・障害の理解	神経・筋疾患について理解する	小川・茂木
第34回	2	症状・障害の理解	骨・関節疾患について理解する	小川・茂木
第35回	2	症状・障害の理解	骨・関節疾患について理解する	小川・茂木
第36回	1	症状・障害の理解	骨・関節疾患について理解する	小川・茂木
評価方法		レポート課題、グループワークへの取り組み、授業態度にて総合的に評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	加藤　幸弘
23		臨床運動学	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	1 単位	演習	

科目概要・目的	教科書（著者/書名/発行所）
リハビリテーションの臨床現場では力学的に物事を考え、臨床意思決定を行う機会が多い。例えば動作の介助や誘導のキーポイントを考えたり、異常動作の原因を推論することが重要となる。そこで理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、観察を中心とした運動分析、動作分析の方法を学習する。 教育目標該当項目： ③⑤	動作分析　臨床活用講座/メジカルビュー キーワード 立位・坐位・起居移動動作・動画での観察・分析

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	動作分析総論	目的、姿勢制御のバイオメカニクス	加藤
第2回	2	寝返り動作	普遍的特性、動作のシークエンス	加藤
第3回	1	寝返り動作	動作を可能にするメカニズム	加藤
第4回	2	寝返り動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第5回	2	起き上がり動作	普遍的特性、動作のシークエンス	加藤
第6回	1	起き上がり動作	動作を可能にするメカニズム	加藤
第7回	2	起き上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第8回	2	起き上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第9回	1	立ち上がり動作	普遍的特性、動作のシークエンス	加藤
第10回	2	立ち上がり動作	動作を可能にするメカニズム	加藤
第11回	2	立ち上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第12回	1	立ち上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第13回	2	歩行	普遍的特性、動作のシークエンス	加藤
第14回	2	歩行	動作を可能にするメカニズム	加藤
第15回	1	歩行	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第16回	2	歩行	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論	加藤
第17回	2	歩行	歩行の観察を記載する	加藤
第18回	1	総括	まとめ	加藤
評価方法	筆記試験100%にて評価する。			

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	植竹　教嗣
24		日常生活活動学	開講時期	2年通年		
			授業時間	90		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	3 単位　演習

科目概要・目的
理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念を学ぶ。それを理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。
教育目標該当項目：
①②④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
理学療法学テキストⅤ　日常生活活動（ADL）　第2版

キーワード
基本動作、身の回り動作、IADL、福祉用具、家族への指導

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	ADLと運動学	動作分析とADL指導について理解する	植竹
第2回	2			
第3回	1			
第4回	2	各疾患のADL指導①	片麻痺のADL指導について理解する	植竹
第5回	2			
第6回	1			
第7回	2	各疾患のADL指導②	脊髄損傷のADL指導について理解する	植竹
第8回	2			
第9回	1			
第10回	2	各疾患のADL指導③	神経筋疾患・難病のADL指導①について理解する	植竹
第11回	2			
第12回	1			
第13回	2	各疾患のADL指導④	神経筋疾患・難病のADL指導②について理解する	植竹
第14回	2			
第15回	1			
第16回	2	各疾患のADL指導⑤	頭部外傷のADL指導について理解する	植竹
第17回	2			
第18回	1			
第19回	2	各疾患のADL指導⑥	脳性麻痺のADL指導について理解する	植竹
第20回	2			
第21回	1			
第22回	2	各疾患のADL指導⑦	人工股関節術後のADL指導について理解する	植竹
第23回	2			
第24回	1			
第25回	2	各疾患のADL指導⑧	関節リウマチのADL指導について理解する	植竹
第26回	2			
第27回	1			
第28回	2	各疾患のADL指導⑨	下肢切断のADL指導について理解する	植竹
第29回	2			
第30回	1			
第31回	2	各疾患のADL指導⑩	呼吸器・循環器疾患のADL指導について理解する	植竹
第32回	2			
第33回	1			
第34回	2	各疾患のADL指導⑪	高齢者のADL指導について理解する	植竹
第35回	2			
第36回	1			
第37回	2	各疾患のADL指導⑫	その他疾患のADL指導について理解する	植竹
第38回	2			
第39回	1			
第40回	2	ADL評価法	疾患別にADL評価を理解する	植竹
第41回	2			
第42回	1			
第43回	2	車椅子・歩行器・杖・自助具	疾患別に福祉用具を理解する	植竹
第44回	2			
第45回	1			

第46回	2	基本動作介助	疾患別に基本動作の介助方法を理解する	植竹
第47回	2			
第48回	1			
第49回	2	トランスファー介助	疾患別に移乗動作を理解する	植竹
第50回	2			
第51回	1			
第52回	2	総括	まとめ	植竹
第53回	2			
第54回	1			
評価方法		出席状況を10%、実技試験を30%、筆記試験を60%として評価する		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	加藤　幸弘
25		理学療法管理学	開講時期	3年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位 講義

科目概要・目的
理学療法士は、地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化する必要がある。理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、組織の能力を最大限に発揮する具体的な管理・教育について学び、理解を深める。
教育目標該当項目：
①②③

教科書（著者/書名/発行所）
PT・OTビジュアルテキスト
リハビリテーション管理学　第1版

キーワード
組織と関連法規、職業倫理、リスク管理、管理・運営

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	管理学とは	社会科学からみた管理学	加藤
第2回	2	管理学とは	医療・看護における管理学	加藤
第3回	1	管理学とは	リハビリテーションにおける管理学	加藤
第4回	2	組織と関連法規	法のしくみ、組織と関連法規の鳥瞰図	加藤
第5回	2	組織と関連法規	各組織と関連法規の基礎知識	加藤
第6回	1	組織と関連法規	各組織と関連法規の基礎知識	加藤
第7回	2	職業倫理	倫理とは	加藤
第8回	2	職業倫理	理学療法士の倫理	加藤
第9回	1	職業倫理	対象者の権利・尊厳	加藤
第10回	2	リスク管理	有害事象とは	加藤
第11回	2	リスク管理	対象者・家族からのクレーム	加藤
第12回	1	リスク管理	ハラスメント	加藤
第13回	2	リスク管理	ハラスメント	加藤
第14回	2	リスク管理	職員のメンタルヘルス・マネジメント	加藤
第15回	1	リスク管理	職員のメンタルヘルス・マネジメント	加藤
第16回	2	病院、介護保険における管理・運営	人事・人材、職員教育	加藤
第17回	2	病院、介護保険における管理・運営	業務・情報	加藤
第18回	1	病院、介護保険における管理・運営	物品管理、収益	加藤
評価方法		出席状況40%、課題内容60%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門	担当者	小川　朋郁
26		理学療法評価法Ⅰ	開講時期　1年通年 授業時間　120		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　4 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として診療所6年間の実務経験を活かした授業で、理学療法評価の意義・目的・過程について理解する。各検査項目の定義・目的・方法を理解し、実技を通してバイタル測定、形態測定、関節可動域測定法、徒手筋力検査法を学ぶ。

教育目標該当項目：
③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
松澤 正 / 理学療法評価学 改訂第6版 / 金原出版株式会社　他

キーワード
理学療法評価および各検査測定の意義・目的・方法、バイタル測定、形態測定、関節可動域測定、筋力検査

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程①	小川
第2回	2	理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程②	小川
第3回	1	理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程③	小川
第4回	2	情報収集	患者情報等の情報収集①	小川
第5回	2	情報収集	患者情報等の情報収集②	小川
第6回	1	情報収集	患者情報等の情報収集③	小川
第7回	2	バイタルサイン	バイタルサインの定義・目的	小川
第8回	2	バイタルサイン	検査、測定方法	小川
第9回	1	バイタルサイン	バイタルサインのまとめ	小川
第10回	2	形態測定	形態測定の意義、目的・概要	小川
第11回	2	形態測定	身体測定と体格指数、四肢長・周径	小川
第12回	1	形態測定	形態測定のまとめ	小川
第13回	2	関節可動域測定	関節可動域測定の定義、目的	小川
第14回	2	関節可動域測定	関節可動域測定法の概要①	小川
第15回	1	関節可動域測定	関節可動域測定法の概要②	小川
第16回	2	関節可動域測定	股関節の測定法①	小川
第17回	2	関節可動域測定	股関節の測定法②	小川
第18回	1	関節可動域測定	股関節の測定法③	小川
第19回	2	関節可動域測定	膝関節・足関節・足部の測定法①	小川
第20回	2	関節可動域測定	膝関節・足関節・足部の測定法②	小川
第21回	1	関節可動域測定	膝関節・足関節・足部の測定法③	小川
第22回	2	関節可動域測定	肩関節の測定法①	小川
第23回	2	関節可動域測定	肩関節の測定法②	小川
第24回	1	関節可動域測定	肩関節の測定法③	小川
第25回	2	関節可動域測定	肘関節・前腕の測定法①	小川
第26回	2	関節可動域測定	肘関節・前腕の測定法②	小川
第27回	1	関節可動域測定	肘関節・前腕の測定法③	小川
第28回	2	関節可動域測定	手関節・手指の測定法①	小川
第29回	2	関節可動域測定	手関節・手指の測定法②	小川
第30回	1	関節可動域測定	手関節・手指の測定法③	小川
第31回	2	関節可動域測定	肩甲帯の測定法①	小川
第32回	2	関節可動域測定	肩甲帯の測定法②	小川
第33回	1	関節可動域測定	肩甲帯の測定法③	小川
第34回	2	関節可動域測定	頸部・胸腰部の測定法①	小川
第35回	2	関節可動域測定	頸部・胸腰部の測定法②	小川
第36回	1	関節可動域測定	頸部・胸腰部の測定法③	小川
第37回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ①	小川
第38回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ②	小川
第39回	1	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ③	小川
第40回	2	徒手筋力検査	筋力検査の概要	小川
第41回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査の概要①	小川
第42回	1	徒手筋力検査	徒手筋力検査の概要②	小川
第43回	2	徒手筋力検査	股関節の筋力検査①	小川
第44回	2	徒手筋力検査	股関節の筋力検査②	小川
第45回	1	徒手筋力検査	股関節の筋力検査③	小川
第46回	2	徒手筋力検査	膝関節の筋力検査①	小川
第47回	2	徒手筋力検査	膝関節の筋力検査②	小川
第48回	1	徒手筋力検査	膝関節の筋力検査③	小川

第49回	2	徒手筋力検査	足関節・足部の筋力検査①	小川
第50回	2	徒手筋力検査	足関節・足部の筋力検査②	小川
第51回	1	徒手筋力検査	足関節・足部の筋力検査③	小川
第52回	2	徒手筋力検査	肩甲骨周囲筋の筋力検査①	小川
第53回	2	徒手筋力検査	肩甲骨周囲筋の筋力検査②	小川
第54回	1	徒手筋力検査	肩甲骨周囲筋の筋力検査③	小川
第55回	2	徒手筋力検査	肩関節の筋力検査①	小川
第56回	2	徒手筋力検査	肩関節の筋力検査②	小川
第57回	1	徒手筋力検査	肩関節の筋力検査③	小川
第58回	2	徒手筋力検査	肘関節・前腕・手関節・手指の筋力検査①	小川
第59回	2	徒手筋力検査	肘関節・前腕・手関節・手指の筋力検査②	小川
第60回	1	徒手筋力検査	肘関節・前腕・手関節・手指の筋力検査③	小川
第61回	2	徒手筋力検査	体幹の筋力検査①	小川
第62回	2	徒手筋力検査	体幹の筋力検査②	小川
第63回	1	徒手筋力検査	体幹の筋力検査③	小川
第64回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査①	小川
第65回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査②	小川
第66回	1	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査③	小川
第67回	2	徒手筋力検査	脳神経支配筋の検査①	小川
第68回	2	徒手筋力検査	脳神経支配筋の検査②	小川
第69回	1	徒手筋力検査	脳神経支配筋の検査③	小川
第70回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ①	小川
第71回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ②	小川
第72回	1	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ③	小川
評価方法	課題の結果を10%、筆記試験の結果を50%、実技試験の結果を40%として評価する。			

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門	担当者	瀬戸　勲
27		理学療法評価法Ⅱ	開講時期　2年前期 授業時間　120		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　4 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験を活かした授業で、理学療法で実施する各評価の意義と目的、方法と結果の記録について説明する。

また、各種評価結果の解釈・統合の方法を学び、疾患の症状について理解を深める。

教育目標該当項目：
③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
松澤正／理学療法評価学／金原出版

キーワード
疼痛、反射、筋緊張、脳神経、片麻痺、認知機能、高次脳、協調性、姿勢反射、バランス、ADL

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	疼痛検査①	疼痛について	瀬戸
第2回	2	疼痛検査②	疼痛検査	瀬戸
第3回	1	疼痛検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第4回	2	知覚検査①	知覚について	瀬戸
第5回	2	知覚検査②	表在・深部・複合感覚検査	瀬戸
第6回	1	知覚検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第7回	2	反射検査①	深部腱反射・病的反射について	瀬戸
第8回	2	反射検査②	深部腱反射・病的反射検査	瀬戸
第9回	1	反射検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第10回	2	筋緊張検査①	筋緊張について	瀬戸
第11回	2	筋緊張検査②	被動性・懸振性検査	瀬戸
第12回	1	筋緊張検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第13回	2	脳神経検査①	脳神経について	瀬戸
第14回	2	脳神経検査②	脳神経検査	瀬戸
第15回	1	脳神経検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第16回	2	脳神経検査④	脳神経について	瀬戸
第17回	2	脳神経検査⑤	脳神経検査	瀬戸
第18回	1	脳神経検査⑥	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第19回	2	片麻痺運動機能検査①	共同運動・連合反応・片麻痺運動障害の特徴について	瀬戸
第20回	2	片麻痺運動機能検査②	ブルンストロームテスト（ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ）	瀬戸
第21回	1	片麻痺運動機能検査③	ブルンストロームテスト（ステージⅣ・Ⅴ・Ⅵ）	瀬戸
第22回	2	片麻痺運動機能検査④	12段階式片麻痺機能テスト	瀬戸
第23回	2	片麻痺運動機能検査⑤	脳卒中機能評価法（SIAS）	瀬戸
第24回	1	片麻痺運動機能検査⑥	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第25回	2	認知機能検査①	認知機能について	瀬戸
第26回	2	認知機能検査②	改訂長谷川式簡易知能評価スケール、MMSE	瀬戸
第27回	1	認知機能検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第28回	2	高次脳機能検査①	高次脳機能について	瀬戸
第29回	2	高次脳機能検査②	高次脳機能検査	瀬戸
第30回	1	高次脳機能検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第31回	2	協調性検査①	協調運動障害について	瀬戸
第32回	2	協調性検査②	協調性検査	瀬戸
第33回	1	協調性検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第34回	2	姿勢反射検査①	姿勢反射について	瀬戸
第35回	2	姿勢反射検査②	姿勢反射検査	瀬戸
第36回	1	姿勢反射検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第37回	2	バランス検査①	バランスについて	瀬戸
第38回	2	バランス検査②	ロンベルグ試験・マン試験・片脚立位試験	瀬戸
第39回	1	バランス検査③	ロンベルグ試験・マン試験・片脚立位試験	瀬戸
第40回	2	バランス検査④	FRT・BBS・TUG	瀬戸
第41回	2	バランス検査⑤	FRT・BBS・TUG	瀬戸
第42回	1	バランス検査⑥	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第43回	2	整形外科疾患検査①	体幹部疾患検査	瀬戸
第44回	2	整形外科疾患検査②	上肢疾患検査	瀬戸
第45回	1	整形外科疾患検査③	上肢疾患検査	瀬戸
第46回	2	整形外科疾患検査④	下肢疾患検査	瀬戸
第47回	2	整形外科疾患検査⑤	下肢疾患・その他の疾患の検査	瀬戸
第48回	1	整形外科疾患検査⑥	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第49回	2	呼吸・循環・代謝検査①	呼吸・循環機能検査について	瀬戸

第50回	2	呼吸・循環・代謝検査②	呼吸・循環機能検査	瀬戸
第51回	1	呼吸・循環・代謝検査③	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第52回	2	日常生活活動検査①	日常生活活動について	瀬戸
第53回	2	日常生活活動検査②	Barthel Index①	瀬戸
第54回	1	日常生活活動検査③	Barthel Index②	瀬戸
第55回	2	日常生活活動検査④	FIM①	瀬戸
第56回	2	日常生活活動検査⑤	FIM②	瀬戸
第57回	1	日常生活活動検査⑥	各検査結果の記録、解釈	瀬戸
第58回	2	評価結果の統合と解釈①	各評価のつながりについて	瀬戸
第59回	2	評価結果の統合と解釈②	統合と解釈について①	瀬戸
第60回	1	評価結果の統合と解釈③	統合と解釈について②	瀬戸
第61回	2	評価結果の統合と解釈④	中枢疾患の評価結果を用いて統合と解釈の実施①	瀬戸
第62回	2	評価結果の統合と解釈⑤	中枢疾患の評価結果を用いて統合と解釈の実施②	瀬戸
第63回	1	評価結果の統合と解釈⑥	中枢疾患の評価結果を用いて統合と解釈の実施③	瀬戸
第64回	2	評価結果の統合と解釈⑦	運動器の評価結果を用いて統合と解釈の実施①	瀬戸
第65回	2	評価結果の統合と解釈⑧	運動器の評価結果を用いて統合と解釈の実施②	瀬戸
第66回	1	評価結果の統合と解釈⑨	運動器の評価結果を用いて統合と解釈の実施③	瀬戸
第67回	2	まとめ①	評価のまとめ	瀬戸
第68回	2	まとめ②	評価のまとめ	瀬戸
第69回	1	まとめ③	評価のまとめ	瀬戸
第70回	2	まとめ④	評価のまとめ	瀬戸
第71回	2	まとめ⑤	評価のまとめ	瀬戸
第72回	1	まとめ⑥	評価のまとめ	瀬戸
評価方法		筆記試験、実技試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況で総合的に判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	加藤　幸弘 専任教員全員
28		理学療法評価法Ⅲ	開講時期	3年前期		
			授業時間	90		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	3 単位　演習

科目概要・目的
理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業を中心に、各症例情報をもとに基礎的知識を確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。
教育目標該当項目：
①②③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
基礎知識、理学療法評価、統合と解釈、リスク管理、画像評価

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	理学療法評価の流れ①	一般的情報、医学的情報、社会的情報について	専任教員
第2回	2	理学療法評価の流れ②	理学療法評価項目の立案について	専任教員
第3回	1	理学療法評価の流れ③	理学療法評価方法の検討、結果の解釈	専任教員
第4回	2	整形(膝関節疾患)症例①	膝関節に関する基礎知識の確認①	専任教員
第5回	2	整形(膝関節疾患)症例②	膝関節疾患に関する病態の整理①	専任教員
第6回	1	整形(膝関節疾患)症例③	膝関節疾患に関する病態の整理②	専任教員
第7回	2	整形(膝関節疾患)症例④	膝関節疾患に対する理学療法評価①	専任教員
第8回	2	整形(膝関節疾患)症例⑤	膝関節疾患に対する理学療法評価②	専任教員
第9回	1	整形(膝関節疾患)症例⑥	膝関節疾患に対する理学療法評価③	専任教員
第10回	2	整形(膝関節疾患)症例⑦	膝関節疾患に対する統合と解釈①	専任教員
第11回	2	整形(膝関節疾患)症例⑧	膝関節疾患に対する統合と解釈②	専任教員
第12回	1	整形(膝関節疾患)症例⑨	膝関節疾患に対する統合と解釈③	専任教員
第13回	2	整形(股関節疾患)症例①	股関節に関する基礎知識の確認①	専任教員
第14回	2	整形(股関節疾患)症例②	股関節疾患に関する病態の整理①	専任教員
第15回	1	整形(股関節疾患)症例③	股関節疾患に関する病態の整理②	専任教員
第16回	2	整形(股関節疾患)症例④	股関節疾患に対する理学療法評価①	専任教員
第17回	2	整形(股関節疾患)症例⑤	股関節疾患に対する理学療法評価②	専任教員
第18回	1	整形(股関節疾患)症例⑥	股関節疾患に対する理学療法評価③	専任教員
第19回	2	整形(股関節疾患)症例⑦	股関節疾患に対する統合と解釈①	専任教員
第20回	2	整形(股関節疾患)症例⑧	股関節疾患に対する統合と解釈②	専任教員
第21回	1	整形(股関節疾患)症例⑨	股関節疾患に対する統合と解釈③	専任教員
第22回	2	中枢(片麻痺)症例①	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認①	専任教員
第23回	2	中枢(片麻痺)症例②	片麻痺疾患に関する病態の整理①	専任教員
第24回	1	中枢(片麻痺)症例③	片麻痺疾患に関する病態の整理②	専任教員
第25回	2	中枢(片麻痺)症例④	片麻痺疾患に対する理学療法評価①	専任教員
第26回	2	中枢(片麻痺)症例⑤	片麻痺疾患に対する理学療法評価②	専任教員
第27回	1	中枢(片麻痺)症例⑥	片麻痺疾患に対する理学療法評価③	専任教員
第28回	2	中枢(片麻痺)症例⑦	片麻痺疾患に対する統合と解釈①	専任教員
第29回	2	中枢(片麻痺)症例⑧	片麻痺疾患に対する統合と解釈②	専任教員
第30回	1	中枢(片麻痺)症例⑨	片麻痺疾患に対する統合と解釈③	専任教員
第31回	2	中枢(片麻痺)症例⑩	片麻痺疾患に対する統合と解釈④	専任教員
第32回	2	中枢(片麻痺)症例⑪	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑤	専任教員
第33回	1	中枢(片麻痺)症例⑫	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑥	専任教員
第34回	2	中枢(片麻痺)症例⑬	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑦	専任教員
第35回	2	中枢(片麻痺)症例⑭	片麻痺疾患に対するまとめ	専任教員
第36回	1	中枢(片麻痺)症例⑮	片麻痺疾患に対するまとめ	専任教員
第37回	2	神経筋（パーキンソン病）症例①	パーキンソン病に関する基礎知識の確認①	専任教員
第38回	2	神経筋（パーキンソン病）症例②	パーキンソン病に関する病態の整理①	専任教員
第39回	1	神経筋（パーキンソン病）症例③	パーキンソン病に関する病態の整理②	専任教員
第40回	2	神経筋（パーキンソン病）症例④	パーキンソン病に対する理学療法評価	専任教員
第41回	2	神経筋（パーキンソン病）症例⑤	パーキンソン病に対する統合と解釈①	専任教員
第42回	1	神経筋（パーキンソン病）症例⑥	パーキンソン病に対する統合と解釈②	専任教員
第43回	2	リスク管理について①	各疾患に対する症状別のリスク管理①	専任教員
第44回	2	リスク管理について②	各疾患に対する症状別のリスク管理②	専任教員
第45回	1	リスク管理について③	各疾患に対する症状別のリスク管理③	専任教員
第46回	2	リスク管理について④	各疾患に対する症状別のリスク管理④	専任教員
第47回	2	リスク管理について⑤	各疾患に対する症状別のリスク管理⑤	専任教員

第48回	1	リスク管理について⑥	各疾患に対する症状別のリスク管理⑥	専任教員
第49回	2	総括①	まとめ①	専任教員
第50回	2	総括②	まとめ②	専任教員
第51回	1	総括③	まとめ③	専任教員
第52回	2	総括④	まとめ④	専任教員
第53回	2	総括⑤	まとめ⑤	専任教員
第54回	1	総括⑥	まとめ⑥	専任教員
評価方法		筆記試験50%、実技試験50%で判定する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門	担当者	植竹　教嗣 専任教員全員
29		理学療法評価演習	開講時期　3年通年 授業時間　90		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　3 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、模擬患者に対し各領域の理学療法評価の立案、正確性・再現性・妥当性のある評価の実施と記録、結果の解釈を行い、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習する。

教育目標該当項目：
①②③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
理学療法評価、評価項目立案、評価の実施、記録、解釈、リスク管理

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第2回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第3回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第4回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第5回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第6回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第7回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第8回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第9回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施	専任教員
第10回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第11回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第12回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第13回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第14回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第15回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第16回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第17回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第18回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第19回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第20回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第21回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施	専任教員
第22回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第23回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第24回	1	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第25回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第26回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第27回	1	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施	専任教員
第28回	2	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案	専任教員
第29回	2	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案	専任教員
第30回	1	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案	専任教員
第31回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第32回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第33回	1	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第34回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第35回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第36回	1	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第37回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第38回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第39回	1	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第40回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第41回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第42回	1	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第43回	2	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第44回	2	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第45回	1	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施	専任教員
第46回	2	総括①	まとめ①	専任教員

第47回	2	総括②	まとめ②	専任教員
第48回	1	総括③	まとめ③	専任教員
第49回	2	総括④	まとめ④	専任教員
第50回	2	総括⑤	まとめ⑤	専任教員
第51回	1	総括⑥	まとめ⑥	専任教員
第52回	2	総括⑦	まとめ⑦	専任教員
第53回	2	総括⑧	まとめ⑧	専任教員
第54回	1	総括⑨	まとめ⑨	専任教員
評価方法		授業への取り組み、提出課題、出席状況などで総合的に判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	植竹　教嗣
30		基礎運動療法学	開講時期	2年前期		
			授業時間	45		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	3 単位	講義	

科目概要・目的
理学療法士として6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験を活かした授業で、理学療法を行う上での可動域、筋力、平衡機能などの基礎知識について学習する。基本的な介入手段・各障害に対しての運動療法を学び、リスク管理についても学習する。

教育目標該当項目：
③④

教科書（著者/書名/発行所）
運動療法学　障害別アプローチの理論と実際　第2版

キーワード
運動療法，関節可動域運動，筋力増強運動，ストレッチング，筋再教育，筋持久力，リスク管理

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	運動療法	関節可動域運動・ストレッチング	植竹
第2回	2	運動療法		植竹
第3回	1	運動療法		植竹
第4回	2	運動療法	筋力増強運動	植竹
第5回	2	運動療法		植竹
第6回	1	運動療法		植竹
第7回	2	運動療法	全身持久力、筋持久力運動	植竹
第8回	2	運動療法		植竹
第9回	1	運動療法		植竹
第10回	2	運動療法	痛みに対しての運動療法	植竹
第11回	2	運動療法	歩行練習	植竹
第12回	1	運動療法		植竹
第13回	2	運動療法	筋再教育	植竹
第14回	2	運動療法	感覚・知覚再教育	植竹
第15回	1	運動療法	協調運動	植竹
第16回	2	運動療法	姿勢・バランス練習	植竹
第17回	2	運動療法		植竹
第18回	1	運動療法		植竹
第19回	2	運動療法	運動学習	植竹
第20回	2	運動療法		植竹
第21回	1	運動療法		植竹
第22回	2	運動療法	各種の治療手技	植竹
第23回	2	運動療法		植竹
第24回	1	運動療法		植竹
第25回	2	運動療法	リスク管理	植竹
第26回	2	運動療法		植竹
第27回	1	総括	総復習と臨床応用	植竹
評価方法		出席状況を10%、筆記試験を90%として評価する		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	加藤　幸弘
31		整形障害理学療法	開講時期 2年後期 授業時間 60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習

科目概要・目的
理学療法士として30年間（総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年）の実務経験を活かした授業で、整形障害領域の障害の特徴を理解し、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。

教育目標該当項目：
②③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）
運動器障害　理学療法学Ⅰ・Ⅱ/中山書店

キーワード
①運動器疾患の病態
②運動器疾患の理学療法評価
③運動器疾患の理学療法

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	組織再生・修復	各組織の再生・修復過程	加藤
第2回	2	組織再生・修復	治療理論	加藤
第3回	1	骨折と脱臼	総論	加藤
第4回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折：上肢骨折	加藤
第5回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折：大腿骨頚部骨折、脊椎圧迫骨折	加藤
第6回	1	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折：大腿骨頚部骨折、脊椎圧迫骨折	加藤
第7回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折の評価と治療	加藤
第8回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折の評価と治療	加藤
第9回	1	変形性関節症	総論：股関節、膝関節	加藤
第10回	2	変形性関節症	保存療法における評価と治療	加藤
第11回	2	変形性関節症	保存療法における評価と治療	加藤
第12回	1	人工股・膝関節置換術	総論	加藤
第13回	2	人工股・膝関節置換術	術後の評価と治療	加藤
第14回	2	人工股・膝関節置換術	術後の評価と治療、ADL指導	加藤
第15回	1	関節リウマチ	総論	加藤
第16回	2	関節リウマチ	評価と治療、ADL指導	加藤
第17回	2	末梢神経損傷	総論	加藤
第18回	1	末梢神経損傷	評価と治療	加藤
第19回	2	頚部疾患	総論	加藤
第20回	2	頚部疾患	評価と治療	加藤
第21回	1	腰部疾患	総論	加藤
第22回	2	腰部疾患	評価と治療	加藤
第23回	2	脊椎手術	総論	加藤
第24回	1	脊椎手術	評価と治療	加藤
第25回	2	肩関節周囲炎	総論	加藤
第26回	2	肩関節周囲炎	評価と治療	加藤
第27回	1	肩の外傷	腱板断裂、外傷性肩関節脱臼、関節唇損傷	加藤
第28回	2	肩の外傷	評価と治療	加藤
第29回	2	肩の外傷	評価と治療	加藤
第30回	1	靭帯損傷と半月板損傷	前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、半月板損傷の総論	加藤
第31回	2	靭帯損傷と半月板損傷	前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、半月板損傷の総論	加藤
第32回	2	靭帯損傷と半月板損傷	前十字靭帯再建術後の評価、治療	加藤
第33回	1	靭帯損傷と半月板損傷	後十字靭帯、内側側副靭帯、半月板損傷の評価と治療	加藤
第34回	2	捻挫と肉離れ	足関節外側側副靭帯、ハムストリングス肉離れの総論	加藤
第35回	2	捻挫と肉離れ	評価と治療	加藤
第36回	1	総括	振り返り	加藤
評価方法	筆記試験100%にて評価する。			

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門	担当者	茂木　真
32		神経障害理学療法	開講時期　2年後期 授業時間　60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　2 単位	演習

科目概要・目的
理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。
教育目標該当項目：
②③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
Closslink理学療法学テキスト
神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ　MEDICAL VIEW社

キーワード
脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS
TBI、脳腫瘍、認知障害、
高次脳機能障害

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	大脳の構造と機能	大脳皮質、海馬、大脳基底核	茂木
第2回	2	大脳の構造と機能	その他の構造	茂木
第3回	1	脳の血管	構造、動脈について	茂木
第4回	2	画像	脳画像	茂木
第5回	2	脳のシステム	脳幹、間脳、中脳	茂木
第6回	1	脳のシステム	橋、延髄、小脳	茂木
第7回	2	脳血管障害の理学療法	脳梗塞の分類、発症リスク、脳出血、くも膜下出血	茂木
第8回	2	脳血管障害の理学療法	医師による治療、理学療法評価	茂木
第9回	1	脳血管障害の理学療法	理学療法評価	茂木
第10回	2	片麻痺患者の治療①	片麻痺患者の急性期①	茂木
第11回	2	片麻痺患者の治療②	片麻痺患者の急性期②	茂木
第12回	1	片麻痺患者の治療③	片麻痺患者の回復期①	茂木
第13回	2	片麻痺患者の治療④	片麻痺患者の回復期②	茂木
第14回	2	片麻痺患者の治療⑤	片麻痺患者の維持期①	茂木
第15回	1	片麻痺患者の治療⑥	片麻痺患者の維持期②	茂木
第16回	2	パーキンソン病	運動障害と非運動障害のリハビリテーション	茂木
第17回	2	パーキンソン病	重症度や薬に合わせたリハビリテーション	茂木
第18回	1	パーキンソン病	ケーススタディ	茂木
第19回	2	筋萎縮性側索硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第20回	2	多発性硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第21回	1	多発性硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第22回	2	脊髄疾患	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第23回	2	脊髄疾患	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第24回	1	ギランバレー症候群	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第25回	2	脊髄小脳変性症	協調運動障害のリハビリテーション	茂木
第26回	2	脊髄小脳変性症	SCDの分類ごとのリハビリテーション	茂木
第27回	1	脊髄小脳変性症	SCDの分類ごとのリハビリテーション	茂木
第28回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第29回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第30回	1	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌	茂木
第31回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際①	茂木
第32回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際②	茂木
第33回	1	ケーススタディ	理学療法の理論と実際③	茂木
第34回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際④	茂木
第35回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際⑤	茂木
第36回	1	総括	まとめ	茂木
評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%で評価する。			

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	江原　裕作
33		内部障害理学療法	開講時期 2年後期 授業時間 60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる。

教育目標該当項目：
②③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
PT・OTビジュアルテキスト　内部障害理学療法学　第1版

キーワード
①検査測定　②内部障害　③心血管疾患　④呼吸器疾患　⑤糖尿病

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の症状	江原
第2回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の評価	江原
第3回	1	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の症状	江原
第4回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の評価	江原
第5回	2	循環器疾患に対する理学療法	心臓カテーテル・胸部レントゲン・心エコー検査	江原
第6回	1	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する薬物療法	江原
第7回	2	循環器疾患に対する理学療法	心肺運動負荷試験	江原
第8回	2	循環器疾患に対する理学療法	心肺運動負荷試験	江原
第9回	1	循環器疾患に対する理学療法	リスク管理について	江原
第10回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法	江原
第11回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法	江原
第12回	1	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法	江原
第13回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状	江原
第14回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状	江原
第15回	1	呼吸器疾患に対する理学療法	リスク管理について	江原
第16回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	胸部レントゲン検査・CT・MRI検査	江原
第17回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患に対する薬物療法	江原
第18回	1	呼吸器疾患に対する理学療法	人工呼吸器について	江原
第19回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	在宅酸素療法	江原
第20回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	フィールドテスト	江原
第21回	1	呼吸器疾患に対する理学療法	術前術後の呼吸理学療法	江原
第22回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法	江原
第23回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法	江原
第24回	1	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法	江原
第25回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	喀痰吸引法①	江原
第26回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	喀痰吸引法②	江原
第27回	1	呼吸器疾患に対する理学療法	喀痰吸引法③	江原
第28回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の症状	江原
第29回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の症状	江原
第30回	1	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の検査所見	江原
第31回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する薬物療法	江原
第32回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する運動処方	江原
第33回	1	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する運動処方	江原
第34回	2	がんに対する理学療法	各病期に対する介入方法	江原
第35回	2	がんに対する理学療法	リンパ浮腫	江原
第36回	1	がんに対する理学療法	リスク管理について	江原
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	江原　裕作
34		物理療法学	開講時期 2年前期 授業時間 60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習

科目概要・目的
理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。
また、各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。

教育目標該当項目:
③④⑤

教科書(著者/書名/発行所)
エビデンスから身につける物理療法
羊土社

キーワード
電気刺激療法・電磁波療法・光線療法・超音波療法・水治療法・牽引療法

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	総論	物理療法の定義	江原
第2回	2	総論	痛みの生理学と病理学	江原
第3回	1	総論	関節可動域制限	江原
第4回	2	総論	関節可動域制限	江原
第5回	2	温熱療法①	温熱療法に必要な物理学	江原
第6回	1	温熱療法②	温熱療法に必要な生理学	江原
第7回	2	温熱療法③	ホットパック	江原
第8回	2	温熱療法④	パラフィン浴	江原
第9回	1	温熱療法⑤	温熱療法まとめ	江原
第10回	2	水治療法①	総論・全身浴について	江原
第11回	2	水治療法②	部分浴について	江原
第12回	1	水治療法③	水治療法まとめ	江原
第13回	2	超短波療法	適応と効果、禁忌、注意事項	江原
第14回	2	極超短波療法	総論、適応と効果	江原
第15回	1	極超短波療法	禁忌、注意事項	江原
第16回	2	寒冷療法	総論、適応と効果	江原
第17回	2	寒冷療法	禁忌、注意事項	江原
第18回	1	寒冷療法	寒冷療法の種類	江原
第19回	2	光線療法	光線の物理学、レーザー療法	江原
第20回	2	光線療法	赤外線療法	江原
第21回	1	光線療法	紫外線療法	江原
第22回	2	超音波療法①	総論	江原
第23回	2	超音波療法②	適応と効果、禁忌、注意事項	江原
第24回	1	超音波療法③	超音波療法の実際	江原
第25回	2	電気刺激療法①	総論	江原
第26回	2	電気刺激療法②	低周波療法①について	江原
第27回	1	電気刺激療法③	低周波療法②について	江原
第28回	2	牽引療法	頸椎牽引, 腰椎牽引について	江原
第29回	2	圧迫療法①	総論、適応と効果	江原
第30回	1	圧迫療法②	禁忌、注意事項	江原
第31回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
第32回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
第33回	1	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
第34回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
第35回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
第36回	1	まとめ	症例に即した物理療法の実際	江原
評価方法	筆記試験100%で評価する。			

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	吉川　将太
35		義肢・装具学	開講時期 2年前期 授業時間 60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習

科目概要・目的

義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、様々な義肢の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。装具療法の意義・目的等を学習する。上下肢、体幹装具の種類について、また適合判定・適応について学習する。

教育目標該当項目：
②③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学　第2版/羊土社

キーワード
切断、大腿義足、股義足、下腿義足
上肢装具、下肢装具、靴型装具、体幹装具、末梢神経障害、脳卒中片麻痺

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	切断	切断・先天性奇形・幻肢について	吉川
第2回	2	切断	切断・先天性奇形・幻肢について	吉川
第3回	1	切断	切断・先天性奇形・幻肢について	吉川
第4回	2	義肢に関する基本的事項	義肢の分類・ソケットの適合・アライメント	吉川
第5回	2	義肢に関する基本的事項	義肢の分類・ソケットの適合・アライメント	吉川
第6回	1	義肢に関する基本的事項	義肢の分類・ソケットの適合・アライメント	吉川
第7回	2	義足に関する基本的事項	義足の種類と適応	吉川
第8回	2	義足に関する基本的事項	義足の種類と適応	吉川
第9回	1	義足に関する基本的事項	義足の種類と適応	吉川
第10回	2	大腿義足①	大腿義足のベンチアライメント・静的アライメント	吉川
第11回	2	大腿義足②	大腿義足の動的アライメント	吉川
第12回	1	大腿義足③	大腿義足の動的アライメント	吉川
第13回	2	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について	吉川
第14回	2	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について	吉川
第15回	1	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について	吉川
第16回	2	異常歩行	異常歩行について	吉川
第17回	2	異常歩行	異常歩行について	吉川
第18回	1	総括	まとめ	吉川
第19回	2	装具の意義	総論	吉川
第20回	2	装具の意義	給付制度	吉川
第21回	1	装具の意義	力学的基礎	吉川
第22回	2	上肢装具	尺骨神経麻痺に対する装具	吉川
第23回	2	上肢装具	橈骨神経麻痺に対する装具	吉川
第24回	1	上肢装具	正中神経麻痺に対する装具	吉川
第25回	2	下肢装具	構成部品とチェックアウト	吉川
第26回	2	下肢装具	足継手	吉川
第27回	1	下肢装具	プラスチック装具と金属支柱付き装具	吉川
第28回	2	体幹装具	頸椎疾患の装具	吉川
第29回	2	体幹装具	胸腰椎疾患の装具	吉川
第30回	1	体幹装具	胸腰椎疾患の装具	吉川
第31回	2	靴型装具	靴の基本構造	吉川
第32回	2	靴型装具	踵の補正	吉川
第33回	1	靴型装具	靴底の補正	吉川
第34回	2	疾患別の装具療法	脊椎側彎症の装具・関節リウマチの装具	吉川
第35回	2	疾患別の装具療法	脳卒中片麻痺の装具・対麻痺の装具	吉川
第36回	1	疾患別の装具療法	小児疾患の装具	吉川
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野　専門	担当者	吉原　旦容 堤　俊介
36		小児理学療法	開講時期　2年後期 授業時間　60		
		☑ 実務経験のある教員による授業		単位数　2 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解する。また，頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し，それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに，障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。

教育目標該当項目：
②③⑤

教科書（著者/書名/発行所）
イラストでわかる　小児理学療法

キーワード
脳性麻痺、二分脊椎、水頭症、悪性腫瘍、遺伝子、染色体異常、系統疾患

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要	外部講師
第2回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法	外部講師
第3回	1	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法	外部講師
第4回	2	二分脊椎	二分脊椎の発生原因や疾患の特徴について	外部講師
第5回	2	二分脊椎	二分脊椎に対する運動療法	外部講師
第6回	1	二分脊椎	二分脊椎に対する運動療法	外部講師
第7回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法	外部講師
第8回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法	外部講師
第9回	1	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法	外部講師
第10回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	先天性奇形、Down症候群について	外部講師
第11回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	各疾患に対する理解と運動療法	外部講師
第12回	1	遺伝子・染色体異常・系統疾患	各疾患に対する理解と運動療法	外部講師
第13回	2	発達評価、子供のコミュニケーション	発達評価について	外部講師
第14回	2	発達評価、子供のコミュニケーション	子どものコミュニケーションについて	外部講師
第15回	1	発達評価、子供のコミュニケーション	子どものコミュニケーションについて	外部講師
第16回	2	重症心身障がい児	重症心身障がいの概要	外部講師
第17回	2	重症心身障がい児	重症心身障がい児の運動療法	外部講師
第18回	1	重症心身障がい児	重症心身障がい児の運動療法	外部講師
第19回	2	呼吸リハビリ	子どもの呼吸リハビリ	外部講師
第20回	2	呼吸リハビリ	子どもの呼吸リハビリ	外部講師
第21回	1	呼吸リハビリ	子どもの呼吸リハビリ	外部講師
第22回	2	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの概要	外部講師
第23回	2	筋ジストロフィー	各病期に対する運動療法	外部講師
第24回	1	筋ジストロフィー	各病期に対する運動療法	外部講師
第25回	2	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について	外部講師
第26回	2	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について	外部講師
第27回	1	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について	外部講師
第28回	2	在宅医療とリハビリ	子どもの在宅医療について	外部講師
第29回	2	在宅医療とリハビリ	子どもの在宅医療について	外部講師
第30回	1	在宅医療とリハビリ	子どもの在宅医療について	外部講師
第31回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際①	外部講師
第32回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際②	外部講師
第33回	1	ケーススタディ	理学療法の理論と実際③	外部講師
第34回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際④	外部講師
第35回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際⑤	外部講師
第36回	1	総括	まとめ	外部講師
評価方法		筆記試験100%にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川　朋郁
37		理学療法各論	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	1 単位　演習

科目概要・目的

理学療法において運動療法は重要な介入手段のひとつである。理学療法士として診療所6年の実務経験を活かした授業で、運動療法を施行するうえで必要な知識について学習する。また運動に伴う身体の変化・反応について理解し、運動療法への理解を深めることを目的とする。

教育目標該当項目:
③④⑤

教科書(著者/書名/発行所)
市橋則明/運動療法学/文光堂

キーワード
運動学、解剖学、生理学、運動療法、運動学習、随意運動

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	運動療法の基礎知識	運動学の基礎知識	小川
第2回	2	運動療法の基礎知識	運動学の基礎知識	小川
第3回	1	運動療法の基礎知識	運動学の基礎知識	小川
第4回	2	運動療法の基礎知識	痛みの基礎知識	小川
第5回	2	運動療法の基礎知識	痛みの基礎知識	小川
第6回	1	運動療法の基礎知識	骨の構造と機能	小川
第7回	2	運動療法の基礎知識	骨の構造と機能	小川
第8回	2	運動療法の基礎知識	関節の構造と機能	小川
第9回	1	運動療法の基礎知識	関節の構造と機能	小川
第10回	2	運動療法の基礎知識	筋の構造と機能	小川
第11回	2	運動療法の基礎知識	筋の構造と機能	小川
第12回	1	運動療法の基礎知識	神経の構造と機能	小川
第13回	2	運動療法の基礎知識	神経の構造と機能	小川
第14回	2	運動療法の基礎知識	運動学習と随意運動	小川
第15回	1	運動療法の基礎知識	運動学習と随意運動	小川
第16回	2	運動療法の基礎知識	視覚と運動制御	小川
第17回	2	運動療法の基礎知識	老化と運動機能	小川
第18回	1	運動療法の基礎知識	老化と運動機能	小川
評価方法		筆記試験の結果を100%として評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	茂木　真 専任教員全員
38		理学療法技術論	開講時期	3年通年		
			授業時間	270		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数　9 単位	演習

科目概要・目的

理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。

教育目標該当項目：
③④

教科書（著者/書名/発行所）
講義開始前に指定する

キーワード

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第2回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第3回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第4回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第5回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第6回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第7回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第8回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第9回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第10回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第11回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第12回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第13回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第14回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第15回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第16回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第17回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第18回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第19回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第20回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第21回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第22回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第23回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第24回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第25回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第26回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第27回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第28回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第29回	2	専門領域	理学療法評価	専任教員
第30回	1	専門領域	理学療法評価	専任教員
第31回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第32回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第33回	1	専門領域	小児理学療法	専任教員
第34回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第35回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第36回	1	専門領域	小児理学療法	専任教員
第37回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第38回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第39回	1	専門領域	小児理学療法	専任教員
第40回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第41回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第42回	1	専門領域	小児理学療法	専任教員
第43回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第44回	2	専門領域	小児理学療法	専任教員
第45回	1	専門領域	小児理学療法	専任教員
第46回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第47回	2	専門領域	ADL領域	専任教員

第48回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第49回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第50回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第51回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第52回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第53回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第54回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第55回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第56回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第57回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第58回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第59回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第60回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第61回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第62回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第63回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第64回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第65回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第66回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第67回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第68回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第69回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第70回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第71回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第72回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第73回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第74回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第75回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第76回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第77回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第78回	1	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第79回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第80回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第81回	1	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第82回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第83回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第84回	1	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第85回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第86回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第87回	1	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第88回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第89回	2	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第90回	1	専門領域	義肢・装具領域	専任教員
第91回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第92回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第93回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第94回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第95回	2	専門領域	ADL領域	専任教員
第96回	1	専門領域	ADL領域	専任教員
第97回	2	専門領域	心理学領域	専任教員
第98回	2	専門領域	心理学領域	専任教員
第99回	1	専門領域	心理学領域	専任教員
第100回	2	専門領域	心理学領域	専任教員
第101回	2	専門領域	心理学領域	専任教員
第102回	1	専門領域	心理学領域	専任教員
第103回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第104回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第105回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第106回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第107回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第108回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員

第109回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第110回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第111回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第112回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第113回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第114回	1	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第115回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第116回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第117回	1	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第118回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第119回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第120回	1	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第121回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第122回	2	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第123回	1	専門領域	義肢･装具領域	専任教員
第124回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第125回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第126回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第127回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第128回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第129回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第130回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第131回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第132回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第133回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第134回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第135回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第136回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第137回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第138回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第139回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第140回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第141回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第142回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第143回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第144回	1	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第145回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第146回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第147回	1	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第148回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第149回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第150回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第151回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第152回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第153回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第154回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第155回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第156回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第157回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第158回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第159回	1	専門領域	精神領域	専任教員
第160回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第161回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第162回	1	専門領域	精神領域	専任教員
評価方法		筆記試験100%により判断する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	吉川　将太
39		地域理学療法学	開講時期	2年通年		
			授業時間	90		
		☑ 実務経験のある教員による授業	単位数	3 単位	演習	

科目概要・目的
理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。
グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。
教育目標該当項目：
①②④

教科書（著者/書名/発行所）
地域リハビリテーション学テキスト

キーワード
ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
第1回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する	吉川
第2回	2			
第3回	1			
第4回	2	加齢による生理機能変化	老化現象のうち、生理機能について理解する	吉川
第5回	2			
第6回	1			
第7回	2	加齢による運動機能変化	老化現象のうち、運動機能について理解する	吉川
第8回	2			
第9回	1			
第10回	2	加齢による精神機能変化	老化現象のうち、精神機能について理解する	吉川
第11回	2			
第12回	1			
第13回	2	老年期に特有の疾患・障害	老年症候群、虚弱（フレイル）、サルコペニア、末梢循環障害について理解する	吉川
第14回	2			
第15回	1			
第16回	2	老年期に特有の疾患・障害	認知症、誤嚥性肺炎、褥瘡、骨粗鬆症、転倒について理解する	吉川
第17回	2			
第18回	1			
第19回	2	地域リハビリテーション関連法規	介護保険法について理解する	吉川
第20回	2			
第21回	1			
第22回	2	地域リハビリテーション関連法規	障害者総合支援法について理解する	吉川
第23回	2			
第24回	1			
第25回	2	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムの考え方、実際について理解する	吉川
第26回	2			
第27回	1			
第28回	2	地域における社会資源	社会福祉協議会など、地域における社会資源について理解する	吉川
第29回	2			
第30回	1			
第31回	2	地域理学療法	地域における理学療法の必要性を理解し、介入根拠を説明できる	吉川
第32回	2			
第33回	1			
第34回	2	地域理学療法	地域における理学療法の評価・治療について説明できる	吉川
第35回	2			
第36回	1			
第37回	2	地域における連携	地域リハビリテーションに関連する専門職種を理解し、連携方法を理解する	吉川
第38回	2			
第39回	1			
第40回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法	吉川
第41回	2			
第42回	1			
第43回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法	吉川
第44回	2			
第45回	1			

第46回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法	吉川
第47回	2			
第48回	1			
第49回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防	吉川
第50回	2			
第51回	1			
第52回	2	地域における介入方法の実際	健康維持、健康増進	吉川
第53回	2			
第54回	1			
評価方法		課題の提出状況(30%)及び筆記試験(70%)にて評価する。		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川　朋郁 専任教員全員
40	○	臨床実習Ⅰ	開講時期	1年後期		
			授業時間	45		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	1 単位　実習

科目概要・目的	教科書（著者/書名/発行所）
6年間（診療所）の実務経験の理学療法士を中心に、関連施設の臨床現場を見学し、医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。また、患者や職員と関わることで、コミュニケーション能力を高める。 教育目標該当項目： ①②③④⑤	キーワード 対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報、情報管理

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
		①医療人・社会人としての意識を持つことができる。 ②理学療法士の業務を見学することで、これからどんな学習が必要なのかを認識できる。 ③自分が目指している職業（理学療法士）を具体的にイメージできる。	関連施設にて見学実習を行う。	専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	瀬戸　勲 専任教員全員
41	○	臨床実習Ⅱ	開講時期	2年後期		
			授業時間	45		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数　1 単位	実習

科目概要・目的	教科書（著者/書名/発行所）
理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験の理学療法士を中心に、地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等）での見学実習を通して学ぶ。 教育目標該当項目： ①②③④⑤	キーワード 地域理学療法・介護保険法・Community-based-rehabilitation・地域包括ケア

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
		①職員、対象者に対して適切な態度でコミュニケーションをとれる。 ②各施設で提供しているサービス内容を見学する。 ③ 各施設での理学療法士の業務内容と役割を見学する。 ④対象者の理学療法ニーズを考えることができる。 ⑤ 理学療法に必要な人的資源について考えることができる。 ⑥理学療法に必要な制度的資源について考えることができる。 ⑦ 理学療法に必要な経済的資源について考えることができる。	臨床現場の各施設にて見学実習を行う。	専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	吉川　将太 専任教員全員
42	○	臨床実習Ⅲ	開講時期	3年前期		
			授業時間	270		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	6 単位　実習

科目概要・目的

一般病院1年と診療所10年間の実務経験の理学療法士を中心に、医療人としての資質の育成を育み、理学療法士としての業務や役割について理解を深める。また実習施設の機能や特徴を把握し、対象となる方を取り巻く、人との関わりについて考える。様々な対象となる方を通じて基本的な検査項目を臨床実習指導者のもと見学・模倣することで知識や技術の研鑽を行うことを目的とする。

教育目標該当項目：
①②③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
情報収集・リスク管理・情報収集・結果の解釈

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。	臨床現場の各施設にて評価実習を行う。	専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川　朋郁 専任教員全員
43	○	臨床実習Ⅳ	開講時期	3年前期		
			授業時間	270		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	6 単位　実習

科目概要・目的	教科書（著者/書名/発行所）
6年間（診療所）の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲで学んだ知識や基本的な検査項目の見学・模倣に加え、臨床実習指導者のもと対象となる方への基本的な検査項目の実施及び治療を見学し、医療専門職としての責任ある態度や行動を学ぶ。対象となる方に応じた評価を見学・模倣・実施すること及び基本的な理学療法手段の見学を目的とする。 教育目標該当項目： ①②③④⑤	キーワード 統合と解釈・ICF

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。 ⑦基本的な検査測定を模倣・実施できる。 ⑧基本的な理学療法手段を見学し、考えることができる。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。	専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）		

令和5年3月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	瀬戸　勲 専任教員全員
44	○	臨床実習Ⅴ	開講時期	3年後期		
			授業時間	315		
		☑ 実務経験のある教員による授業			単位数	7 単位　実習

科目概要・目的
理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲ・Ⅳで体験した理学療法評価の実施及び基本的な理学療法手段の見学に加え、対象となる方に応じた基本的な理学療法手段を模倣することでさらに自己研鑽することを目的とする。

教育目標該当項目：
①②③④⑤

教科書（著者/書名/発行所）

キーワード
目標設定・理学療法プログラム立案

回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。 ⑦基本的な検査測定を模倣・実施できる。 ⑧基本的な理学療法手段を見学し、考えることができる。 ⑨基本的な理学療法手段を模倣することができる。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。	専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）		